

第5回緊急消防援助隊全国合同訓練の実施結果について

首都直下地震、南海トラフ地震等の大規模災害に対応できるよう、全国規模の参集訓練及び実践的な部隊運用訓練を実施し、より迅速な参集体制の確立及び連携活動能力の向上を図ることを目的として、総務省消防庁の主催により、本県の市原市及び千葉市を主な会場として実施されました。

1 実施日

平成27年11月13日（金）～14日（土）

2 主な会場及び訓練内容

- (1) 本部運営訓練会場：千葉県庁、市原市、山武市、千葉市消防局他6消防本部
 - 消防応援活動調整本部運営訓練・県災害対策本部運営訓練
 - 指揮支援本部運営訓練・市災害対策本部運営訓練
- (2) 即応救助・第1宿営訓練会場：蘇我スポーツ公園（千葉市中央区）
 - 瓦礫・土砂災害救助訓練
 - 多重衝突事故救助訓練
 - 宿営訓練
- (3) 救助連携訓練会場：養老川河川敷（市原市）
 - 大規模瓦礫・土砂災害救助訓練
 - 漂流者救助訓練
 - 大規模火災消火訓練
- (4) メイン総合訓練会場：市原スポレクパーク隣接地（市原市）
 - ビル座屈・地下街崩落事故救助訓練
 - 列車脱線・落下事故救助訓練
 - ヘリコプター空中消火訓練
 - 津波漂流・孤立者救助訓練
 - 木造家屋倒壊事故救助訓練
 - トンネル崩落事故救助訓練
 - 瓦礫・土砂災害事故救助訓練
 - 航空機事故救助訓練
 - 毒劇物事故救助訓練
- (5) 石油コンビナート等災害対応訓練会場：コスモ石油株式会社千葉製油所（市原市）
 - 危険物タンク火災消火訓練
 - 足場パイプ崩落事故救助訓練
 - 高圧ガスタンク火災消火訓練

- 棧橋・船舶火災消火訓練
- 海上への油流出事故対応訓練

3 参加機関（参加者：約3,000人）

- (1) 各都道府県緊急消防援助隊
- (2) 千葉県内消防本部
- (3) 千葉市消防団、市原市消防団、木更津市消防団、山武市消防団
- (4) 石油コンビナート地域の自衛防災組織等
- (5) 防災関係機関
内閣府、自衛隊（陸上、海上、航空）、海上保安庁千葉海上保安部、TEC-FORCE（国土交通省）、千葉県警察、DMAT、日本赤十字社千葉県支部 他

4 訓練想定

直下型地震及び海溝型地震が連続して発生し、千葉県では、最大震度7を観測し、市街地火災、コンビナート火災、津波浸水など複合的な災害が広範囲で発生したため、千葉県知事は、緊急消防援助隊の出動を要請する。

緊急消防援助隊は、消防庁長官の指示又は求めに基づき、千葉県へ迅速に出動し、各種災害現場において、消火・救助・救急活動等を実施するとともに、関係機関と連携した活動を展開する。

5 訓練の特徴

- (1) 全ての都道府県から緊急消防援助隊が参加。また、消防団、警察・自衛隊・海上保安庁・DMAT等の実動機関約が参加し、過去最大規模の訓練を実施。
- (2) 全国から陸路により進出するほか、自衛隊輸送機・大型ヘリ、民間フェリー・航空機など多様な手段により参集する訓練を行い、陸路で迅速な進出が困難な場合における対応を検証。
- (3) 大規模地震により広範囲で複合的な災害が発生したことを想定し、県庁や消防本部等において行う図上訓練と部隊参集訓練、実動訓練を連動させ、各訓練をブラインド型により実施。
- (4) 災害現場だけでなく、県災害対策本部や市災害対策本部の各レベルにおいて、救助活動、救急搬送、ヘリの活動等の各分野での実動機関間の活動調整や情報共有を実施。

6 訓練の様子



消防応援活動調整本部運営訓練(千葉県庁)



指揮支援本部運営訓練(千葉市消防局)



多重衝突事故救助訓練(蘇我スポーツ公園)



宿営訓練(蘇我スポーツ公園)



大規模瓦礫・土砂災害救助訓練(養老川河川敷)



大規模火災消火訓練(養老川河川敷)



ビル座屈・地下街崩落事故救助訓練(メイン)



木造家屋倒壊事故救助訓練(メイン)



瓦礫・土砂災害事故救助訓練(メイン)



毒劇物事故救助訓練(メイン)



危険物タンク火災消火訓練(コスモ石油)



棧橋・船舶火災消火訓練(コスモ石油)

○ 緊急消防援助隊

阪神・淡路大震災を教訓に平成7年6月に創設され、これまで東日本大震災をはじめとする30の災害に出動しています。

○ 緊急消防援助隊全国合同訓練

総務省消防庁の主催により、全国の緊急消防援助隊が一同に会し、消火・救助技術や指揮・連携活動能力等の向上を図ることを目的として、平成7年度以降、5年に1回、実施されています。

問い合わせ先

千葉県 防災危機管理部

危機管理課 災害対策室

電話 043-223-3563